



最後の夏にかける思い

～Summer of 1982～

1982年(昭和57年)の夏を今でも忘れることはありません。

私は国見中野球部の2年生で、3年生の先輩たちと一緒に、県中体連決勝まで勝ち進みました。

一つ上の先輩が強かったかという、決してそうではありませんでした。3年生対2年生の紅白戦をしても、2年生がたいい勝っていました。当時は公式戦が年間3回しかなく、先輩たちは秋の新人戦で伊万里中に敗れ、春の市長旗でも伊万里中に敗れ、公式戦で勝ったことがほとんどありませんでした。いつしか部室の扉の内側には、「**打倒伊中!**」と書いた紙が貼られていました。

1982年、先輩たちにとって中学最後の地区中体連。準決勝で伊万里中と激突しました。試合は予想外の投手戦となり、0対0のまま6回裏の国見中の攻撃を迎えました。途中から降り出した雨の中、先輩たちはツーアウト2塁のチャンスをつくりましたが、次の打者がセカンドへのボテボテのゴロ…。スリーアウトチェンジかと思った次の瞬間、伊万里中のセカンドが1塁へ投げたボールがすっぽ抜け、悪送球となり1点が入ったのです。7回表、マウンドに登るキャプテンの吉原さんは既に泣いていました。それを見た高瀬先生(監督)が、「まだ試合は終わっとらんぞ!」と叫んだ様子は今でもよく覚えています。7回表を0点に抑えた先輩たちは、最後の最後で、ついに伊万里中に勝ったのです。そして、その勢いは留まることを知らず、地区大会優勝から県大会の決勝戦まで一気に突き進みました。

最後の夏にかけた先輩たちの熱い思いは、自分たちも気づかぬうちに、一人の中学生を大きく成長させていました。

「2026年の夏」は誰にとっても最後の夏です。勝つことだけが成長ではありません。しかし、本気で挑んだ時間は、必ず人を成長させます。今年の夏が子どもたちを成長させ、子どもたちの胸にいつまでも残るような特別の夏となるよう、我々大人も最後の最後まで一緒になって応援がんばりましょう!! くれぐれも熱中症には気をつけながら…。

「制服」か、「ジャージ」か、「どっちでもいい」か問題から **1** 年

最近、テレビやネットで「おじさんのハーフパンツ問題」を目にします。様々な意見がある中で、議論が広がること自体は大切なことですが、今の日本の世相を象徴しており少し残念な気持ちになります。しかし、標記の問題は別問題です。昨年、子どもたちの意見が職員を動かし、体育大会期間中や夏場の暑い時期に限り、「自身の一日のスケジュールを考え、その日に合った服装を自分で判断し登校する」となりました。

今年は来週7月1日(水)から体操服登校を可とします。昨年は、体育のあと、汗だくのまま授業を受けている様子も散見されましたので、着替等も準備していただきますよう併せてお願いします。

なお、期間終了については、気象状況等を見ながら改めてお知らせします。

※裏面へつづく

熱〜い応援をお願いします

Team-Yamashiro
Team-Yamashiro

競技種目	期 日	会 場	備 考
軟式野球	6月27日(土) 28日(日) 7月 4日(土)	国見台野球場 ※予備日(7/5) 国見台野球場・有田赤坂球場	27日 開会式 28日 ①東陵・南波多 11:00 4日 決勝戦 9:00
バレーボール(女子)	6月27日(土) 28日(日)	国見中学校体育館	27日 予選リーグ ①青嶺 ④国見 28日 決勝トーナメント
ソフトテニス(男子)	6月27日(土) 28日(日)	国見台庭球場 ※団体戦予備日(6/28) 個人戦予備日(7/4、5)	27日 団体戦(総当たりリーグ戦) ①西有田 ②伊万里 ③南波多 ④国見 28日 個人戦
卓球(女子個人)	6月28日(日)	有田町文化体育館	競技開始 9:00
剣道(女子)	6月27日(土)	佐賀市立嘉瀬小学校体育館	地域クラブ活動杯予選会
陸上競技	7月11日(土) 12日(日)	SAGA サンライズパーク SAGA スタジアム	11日 競技開始 9:10 12日 競技開始 9:00

※ 27日(土)は荒天が予想されます。雨天順延の場合は、あんしんメールによりお知らせします。



県中体連決勝 鳥栖中 2 - 0 国見中

1982年7月31日 太良町営野球場

校長室より 「努力はウソをつかない」は本当か…?

「努力はウソをつかない」という言葉をよく耳にします。しかし、本当にそうでしょうか。

現実には、どれだけ努力しても、負けることもあります。思うような結果が出ないことも、決して少なくありません。だからこそ、「努力すれば必ず報われる」と言い切ってしまうのは、少し違うのかもしれない。しかし一方で、確実に言えることがあります。それは…

「努力しなければ、報われることはない」ということです。

努力は結果を約束してくれるものではありません。しかし、努力した時間は、自分の中に確実に蓄積されます。仲間と過ごした時間、苦しかった練習、あきらめずに挑んだ経験は、スポーツに限らず、必ずその後の自分を支えてくれます。

いよいよ始まるそれぞれの夏。勝敗は誰にも分かりません。それでも、自分にできる準備をやり切った人だけが、胸を張って次の一步を踏み出すことができます。

この夏、皆さん一人一人が、自分自身に誇れる努力を積み重ねてくれることを願っています。

私も全力で皆さんを応援しています! 「最後の最後まで頑張ってきてね!」 (^^)/